

No. 7	事業名	家庭との連携による生活習慣、学習習慣の確立
-------	-----	-----------------------

1. 基礎情報

2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進 重点課題2:学力・体力の向上	児童生徒の保護者に、啓発のためのリーフレットを配布するなど、児童生徒の望ましい生活習慣、学習習慣の確立を目指します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標3:学校・家庭・地域の連携を深めます	
関連施策	施策(11):家庭との連携による生活・学習習慣の確立	
担当課	教育指導課・支援教育課・学校保健課	

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
子どもの生活状況の把握と分析	計画	—	—	実施	—
	実績	—	—	—	—
家庭学習啓発リーフレット	計画	配布	配布	配布	配布
	実績	配布	配布	—	—
横須賀子どもスタンダード(注47)	計画	配布 小1	配布 小1	配布 小1	配布 小1
	実績	配布 小1	配布 小1	—	—
教育フォーラム	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	開催	—	—
保健だより、給食だよりなどを通じた意識啓発	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—

4. 実施内容(実績)および効果

<p>○家庭学習啓発リーフレット 各家庭にリーフレットを配布することによって、家庭学習の必要性に対する意識が高まった。</p> <p>○横須賀子どもスタンダード 4月に小学校1年生児童に配布した。継続して配布していることで、児童指導に対して学校間・職員間の意識差が軽減され、職員の共通理解のもとに児童指導にあたることができた。</p> <p>○教育フォーラム PTAに対してフォーラムをひらくことによって、学力向上のための学校・家庭の連携の必要性を啓発することができた。</p> <p>○児童指導担当者研修講座や横須賀市PTA協議会等で説明を行い、教職員や保護者への理解を図った。</p> <p>○保健だより、給食だよりなどを通じた意識啓発 保健だよりは養護教諭が、給食だよりは栄養教諭等が各校で作成し、児童生徒及び保護者あて配布した。児童生徒及び保護者の意識啓発により児童生徒の望ましい生活習慣、学習習慣の確立に向けた家族との連携を図ることができた。</p>
--

5. 課題

<p>○家庭学習リーフレット その活用について保護者に浸透させることが困難である。</p> <p>○横須賀子どもスタンダード 市民や保護者に対して、広く周知浸透させることがまだまだ困難である。</p>
--

6. 課題に対する今後の改善策

○家庭学習リーフレット

継続して配布すると同時に教育フォーラム等で保護者に向けて発信を行っていく。

○横須賀子どもスタンダード

継続して小学校新1年生に配布し、保護者へ丁寧に説明をしていく。引き続き、児童指導担当者研修講座等で教職員に説明し理解を深めてもらうとともに、横須賀市PTA協議会と連携し、保護者への理解を図る。

※学識経験者の意見等

○家庭・家族の在り方が多様化し、同時に困難な課題を抱えた家庭・家族の孤立化も深刻になっている。一般的標準的な家庭・家族の姿を想定した家庭教育ではすでに現実のニーズとは大きな乖離が生じやすい。リーフレット、フォーラム等の内容と実施方法の一層の改善を図りながら、継続した取組が望まれる。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○各学校は、リーフレット配布の際、子どもや保護者に合わせて説明を付け加えるなど、それぞれが工夫をしながらリーフレットを活用している。さらに、活用しやすいリーフレットを検討していきたい。

○「横須賀子どもスタンダード」については、懇談会でも話題にして取り上げるなど、機会をつくり保護者への理解と啓発に努めていく。また、教職員は「横須賀子どもスタンダード」を児童指導の指針とし、教職員間での共通理解のもと、継続して児童指導にあたるようにすすめる。

○教育フォーラムも、話し合いの機会を設けるなど、ニーズに合わせてプログラムを変更しながら開催した。今後も、ご要望に合わせて開催していきたい。

No. 8	事業名	児童生徒健康・体力向上推進事業
-------	-----	-----------------

1. 基礎情報

2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題1: 学校・家庭・地域の連携推進 重点課題2: 学力・体力の向上	市内全体の児童生徒の健康体力、運動習慣の状況について把握します。それぞれの調査結果を検証、対策について検討し、それぞれの調査結果や相関関係を児童生徒および保護者に提供します。
掲載編	スポーツ編	
関連目標	目標1: 子どもの生活習慣を改善し、体力の向上を図ります	
関連施策	施策(1): 生活習慣の改善および健康・体力づくりの推進	
担当課	スポーツ課	

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	開催	—	—
体力・運動能力調査	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—

4. 実施内容(実績)および効果

【実施内容】

平成26年度まで「全国調査(小学校5年生及び中学校2年生対象の悉皆調査)」と「神奈川県調査(市内小学校6~7校、同中学校5~6校を抽出)」のみであった「体力・運動能力、運動習慣等調査」を、平成27年度は「横須賀市調査」として、小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒を対象に行った。調査結果は、個人、学年・学校、市全体の別に集計分析し、それぞれに還元した。

また、学識経験者を交えた「横須賀市児童生徒・体力向上推進委員会」を開催し、健康・体力向上に向けた方策について協議した。さらに4つの横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会担当部会で、具体的な取り組みについて検討し、その内容について横須賀市体力づくり実践研究発表大会で報告した。

◆横須賀市児童生徒体力・運動能力、運動習慣等調査

- ・各学校における調査実施(平成27年4月~7月)

- ・調査結果の集計分析(平成27年7月~10月)

- ・集計分析結果を基にした考察及び資料づくり(平成27年10月~12月)

◆第1回横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会の開催(平成27年6月25日)

- ・児童生徒の健康・体力向上に向けて取り組むべきことの整理

- (学校として取り組むこと、行政として取り組むことなど)

- ・教職員、保護者への啓発資料についての検討

◆第2回横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会の開催(平成27年12月17日)

- ・平成27年度体力等調査結果の考察

- ・各担当部会の取組の方向性について報告

◆横須賀市児童生徒・体力向上推進委員会担当部会の取組(平成27年10月~12月)

- 子どもの体力向上部会

- ・体力・運動能力調査結果の分析及び考察

- ・運動習慣等の調査結果の分析及び考察

- ・市内の体力の傾向分析

- ・全国との比較

- ・新体力テスト講習会の実施

- 運動習慣の定着部会

- ・体力づくり指定校と運動部活動モデル校での取組について

- 生活習慣の改善部会

- ・生活習慣啓発資料作成について

- 健康・体力づくりの情報提供部会

- ・市体力実践研究発表大会で取組内容の発表について

【効果】

学識経験者の助言や小学校体育研究会、中学校保健体育研究会、学校保健研究会健康安全部会、中学校体育連盟各会の協力により、体力・運動能力向上の取組実践が広がりつつある。平成26年度と比較して、特に女子において新体力テストの結果に上昇傾向が見られた。平成26年度までの市内委託校研究で取り組まれた、「児童生徒に具体的な目標を示して測定を実施する」「効果的な言葉かけによって運動意欲を高める」などで記録向上に効果のある指導が、市内の学校へ広がりを見せた。

5. 課題

- 本市児童生徒の体力は上昇傾向にあるが、依然、全国平均値と比較すると劣っていること。
- 新体力テストの測定時に、全力で実施していない児童生徒が多数いると思われること。
また、そのための指導法が定着していないこと。
- 自校の体力・運動能力の実態を分析し、学校教育全体で取り組んでいる学校が少ないこと。
- 学力や生活習慣とを関連付けた健康・体力向上の取組が行われていないこと。

6. 課題に対する今後の改善策

- 研究委託校で実践し、効果があることが明らかになった方法を各研究会と協力して横須賀市全体に広めていくことで、多くの児童生徒が運動への意欲が高まり全力で取り組むように指導する。
- 横須賀市体力・運動能力、運動習慣テストを実施し、横須賀市の児童生徒の体力の結果を学校、個人ごとに分析し、フィードバックすることで学校と個人の体力向上に生かす。また、横須賀市全体の傾向を分析し、全市へ情報発信する。
- 国や横須賀市学習状況調査と横須賀市体力・運動能力、運動習慣等調査結果との相関を分析し、横須賀市としての具体的に取組内容を明らかにする。

※学識経験者の意見等

- 研究委託校で実践し、効果があることが明らかになった方法が、どのように多くの児童生徒の健康・運動面の意欲と意識の向上に繋がっているのか、一層具体的に説明・普及されていく必要がある。その際、児童生徒の健康・運動面の意欲と意識の向上は、同時に学習面での意欲的な姿に連動していることが望まれる。実践研究校の事例が児童生徒の健康・運動面ばかりではなく、学習・学力面でも効果をあげているか、こうした相互的な視点から分析を進めて、事例を広く公開・普及していくことが望まれる。
- 体力は人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や精神面の充実に大きく関わっており「生きる力」を支える上での重要な要素である。発育発達の旺盛な時期にその能力を高めておくことは必須の課題である。
- 児童生徒の体力の現状は昭和60年ごろをピークとして長期的に低下傾向にあったが、近年低下傾向に歯止めがかかり向上傾向を示していると報告されている。本市においても平成26年度に比し小学校5年生、中学校2年生女子において上昇傾向がみられている。ただし、新体力テストの測定時に全力で実施していない児童生徒が多数いると指摘されていることは問題である。児童生徒が新体力テストの意味を十分理解して、真剣に取り組むような方策を期待したい。
- 児童生徒に調査結果から自己の結果と他との比較をすることによって、今後の健康体力や運動習慣について改善する資料となるよう提供されたい。
- 新体力テストはスポーツを行う上での基礎的運動能力としてだけでなく、体力は健康維持の関連から「病気を予防する力」として、将来ともに生活習慣病や介護・認知症等の予防として、スポーツ・運動が果たす役割が大きいことが科学的に証明されている。
- 体力テスト取組リーフレットを児童・保護者に配布することにより体力テストに関心を持たせることは有効なことと考える。
- 児童生徒健康・体力向上推進事業は将来を担う若者の教育として重要な施策と考える。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○学習指導要領総則に「体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする」とある。平成27年度から、小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒を対象に、体力・運動能力、運動習慣等調査を実施し、その結果分析を業者委託しているが、各校がその調査結果から自校の課題を見つけ出し、その解決に向けて積極的に取り組むことができるように、横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会及び担当部会において、横須賀市の体力向上、生活習慣、運動習慣等の改善に向けた取組を検討していきたい。

No. 9	事業名	学校評価推進事業
-------	-----	----------

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進 重点課題4:学校の教育力向上
掲載編	学校教育編
関連目標	目標2:学校の組織力や教職員の力を高めます
関連施策	施策(6):学校運営改善の充実
担当課	教育指導課

2. 事業の概要

学校が学校評価を適切に実施し、教育活動や学校運営の充実・改善を図ることができるよう、学校評価の推進に努めます。

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校評価に関する指導・助言	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
学校評価の在り方の検討・実施	計画	検討	実施	実施	実施
	実績	検討	実施	—	—
学校評価アンケート調査集計業務委託	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—

4. 実施内容(実績)および効果

<p>学校評価に関する指導・助言</p> <p>○各学校から提出された学校評価をもとに学校訪問を行い、学校の捉えている課題に対しての指導・助言を行った。また、各学校から提出された学校評価の報告をもとに、学校評価の優れた取組を発信することで、学校評価の取組に対する啓発につながった。</p> <p>学校評価の在り方の検討・実施</p> <p>○教育委員会内で学校に課している学校評価を含めた報告書について洗い出し、報告書の一本化に向けた検討を行った。</p> <p>○総括教諭連絡会において情報提供を行ったり、学校評価の研修を実施するとともに、学校評価担当者会を開催するなどして、学校評価の理解を深めた。</p> <p>学校評価アンケート調査集計業務委託</p> <p>○学校評価に関わる外部アンケートの集計業務について業務委託を行い、集計データをもとに各学校が自校の教育活動の成果と課題を明らかにし、学校改善につなげることができた。</p>
--

5. 課題

<p>○各学校の学校評価への理解に差があり、一部の学校で取組が形骸化してしまっている。</p> <p>○外部アンケート集計についても、学校によっては中間検証、年度末検証と二度取り組む学校もあり、集計業務委託を複数回行いたいという要望がある。</p>
--

6. 課題に対する今後の改善策

<p>○学校評価の理解を深めるために、担当者会の開催や学校評価研修を実施していく。</p> <p>○学校評価のひな型についての検討を引き続き行う。</p> <p>○外部アンケートについては、学校の実施実態を把握し、複数回取り組む学校が多い場合には、予算要求していく。</p>

No. 10	事業名	学力向上事業
--------	-----	--------

1. 基礎情報

2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題2: 学力・体力の向上	「横須賀市学力向上推進プラン」に基づき、学力向上の取組の充実を図ります。また、教員の授業力向上や人材育成を進めるための学校組織の活性化を推進します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1: 子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(1): 教育活動の充実	
担当課	教育指導課・教育研究所・教育政策担当(教育情報システム室)	

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
各学校が作成する「学力向上プラン」充実のための指導主事(注24)の派遣	計画	派遣	派遣	派遣	派遣
	実績	派遣	派遣	—	—
学力向上推進担当者会(総括教諭等学校運営推進者連絡会)	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	開催	—	—
学力向上推進モデル校	計画	設置	設置	設置	設置
	実績	設置	設置	—	—
学力向上放課後教室サポートティーチャー(注25)	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	配置	—	—
家庭学習啓発リーフレット	計画	配布	配布	配布	配布
	実績	配布	配布	—	—
家庭学習用データベースバンク	計画	整備	整備	整備	整備
	実績	整備	整備	—	—
横須賀市学力向上推進委員会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	開催	—	—
教育フォーラム	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	開催	—	—
横須賀市学習状況調査(注26)	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
横須賀の学力向上について調査・研究(研究会(注27))	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
学力向上をねらいとした研修体系	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	充実	—	—
教師力アップ(注28)プロジェクト	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
横須賀総合高等学校でのサテライト授業	計画	開設	開設	開設	開設
	実績	開設	開設	—	—

4. 実施内容(実績)および効果

○学力向上プラン充実のための指導主事派遣

学校訪問において学力向上プラン作成のための指導助言を行い、学校の学力向上のPDCAサイクルの確立につながった。

○学力向上推進担当者会

総括教諭等学校運営推進者会議では、学力向上に向けた組織的な取組について推進し、学力向上の学校体制での取組を図った。また、学力向上担当者会においては、横須賀市の学習状況や学習状況調査の分析方法等について伝達し、各学校の学習状況をもとにした学力向上の取組を具体化することにつながった。

○学力向上放課後教室・サポートティーチャー

放課後だけでなく、授業中にも配置を拡大することにより、各学校で学習状況に課題を持つ子どもたちに対して個に応じた支援をすることができた。

○学力向上推進モデル校

学力向上推進モデル校を設置し、学力向上に向けた先進的な取組を研究し、中間発表を行うことで、市内の取組の充実につながった。

○家庭学習啓発リーフレット

各家庭にリーフレットを配布することによって、家庭学習の必要性に対する意識が高まった。また、小学校の入学説明会で配布する就学前用リーフレットも作成、配布した。

○家庭学習用データベースバンク

各学校がパソコン上からデータを取り出せることで、家庭学習の充実とともに児童生徒の基礎基本の定着につながった。また、その活用推進のために、抜粋印刷したものを学校に配布することで活用の充実につながった。

○横須賀市学力向上推進委員会

横須賀市の学力向上の取組に対しての進言を得、新たな学力向上に向けた提言をいただくことにより、取組の充実と共に学力向上の方向性を確立することにつながった。

○教育フォーラム

PTAを対象とに学校部会ごとにフォーラムを開催することで、学力向上のための学校・家庭・地域の連携の必要性を啓発することができた。

○横須賀市学習状況調査

小学校3年生を調査対象に拡大することにより、横須賀市の児童生徒の学習状況を小学校3年生から中学校3年生まで広く把握することにつながり、横須賀市の児童生徒の課題が明確になった。

○横須賀の学力向上について調査・研究

研究員会を立ち上げ、横須賀市の学力の課題に着目し、課題解決のための研究を進めた。

■課題に対する手立てを考えた。

① 知識・技能→知識を単独ではなく、つながりを生み、一般化できるようにする。

② 読解力→文章・地図等の資料から、必要なことを読み取ることができるようにする。

③ 学習意欲→逃げず挑もうとする意欲に課題が見られる。

■手立ての具体的な手立てを、授業レベルで考えた。

・適切な目標の設定 ・教材研究

<1時間の授業として> ・課題(めあて)の設定 ・授業展開 ・本時目標につながる振り返り

■授業の中で実践し、方法の検証を行った。

・前時に確認された次の目標を本時目標にすることで、子供の意識がつながり学習が深まることが分かった。

・子供の実態を把握し、それに対応した授業にすることの大切さが分かった。

○学力向上をねらいとした研修体系

研修体系を整理することにより、教師の指導力向上から学力向上につなげる研修を構築した。

○教師力アッププロジェクト

学力向上につながる校内での人材育成をどう実施するか、人材育成モデル校を設置し、その取組をもとに人材育成プログラム(資料)を作成し、市内学校への発信に向けた準備を行った。

○横須賀総合高等学校でのサテライト授業

受験サプリという形で一人一人の生徒が様々な教科について活用できるようにした。

5. 課題

○学力向上プランを作成することにより、学力向上に向けた組織的な取組につながってきているが、検証等に課題が見られ、プラン作成が形骸化している学校も見られる。

○学力向上推進担当者会については、担当者会及び総括教諭連絡会として開催し、担当者レベルでの意識向上が図られているが、教員一人一人の学力向上に向けた理解や意識向上については課題がある。

○学力向上について調査・研究において、明らかになった課題に対する手立てを具現化した実践を積み重ねるとともに、実践事例を発信することにより各学校で質の高い授業が行われ、子供の学力向上につなげていくこと。

6. 課題に対する今後の改善策

○学力向上プランの形式がPDCAのわかりにくいものとなっているため、その形式について検討し、学校の計画、取組、検証結果のつながりが分かるものとする必要がある。

○教員一人一人の学力向上に対する意識向上を図るため、教育委員会の広報紙等での情報宣伝や、指導主事が学力向上につながる内容を必ず盛り込んだ授業に対する指導助言を行っていく。

○研究員会を本年度も継続して行い、課題に対する調査研究を具体的な提案ができるように進める。

※学識経験者の意見等

○学力向上プランの形式を再検討し、学校の計画、取組、検証結果のつながりが分かるものとする、という施策は是非とも実施し、具体的な改善を図ってほしい。また、汎用性に着目した新しい能力・学力観に基づく新教育課程への転換が図られようとしている中、そうした事態に対応可能な教員の資質・能力の育成と児童生徒理解に根ざしたきめ細やかな授業力の向上が十分になされているか、慎重な検討が望まれる。これまでの研修体系の在り方とその実施状況の結果から、これまでの成果で今後の新教育課程の実施に十分対応可能かどうか、さらなる改善の必要はどこにあるか、具体的な検討の促進が望まれる。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○平成28年度は学力向上プランの形式を改訂し、計画、取組、検証結果のつながりが分かるものとした。その上で、学校担当指導主事が各学校の学力向上プランを確認し、目標設定や検証指標等について学校訪問において指導助言を行うことで、学校の学力向上の取組をより具体化させていきたい。

○新教育課程への転換を図るよう、校内研究等による日常的な授業観察をもとに、教員の資質能力や授業力に関する実態を詳細に把握し、課題に対する対応について教育委員会全体で行ってきたい。

○また、他課と連携する中で研修体系についても一度見直し、新しい能力や学力観に対応できるとともに、児童生徒理解に根ざしたきめ細やかな授業力の向上をねらいとして、人材育成を進めていきたい。

○これまでの研修体系では、教員の指導力向上と校内の活性化を図ることを重要視し、校内における授業研究会の定着など、一定の成果を得られたと捉えている。しかし、新教育課程の実施に対応していくにあたり、教科の専門性を意識した授業づくりという点では課題がある。新教育課程において更なる充実が図られる、英語教育、道徳教育、支援教育などについては、知識の習得はもとより、特にその指導力向上に留意し、研修体系を構築していく。